

福島第一原子力発電所の状況

平成 24 年 8 月 29 日
東京電力株式会社

< 1. 原子炉および原子炉格納容器の状況 > (8/29 11:00 時点)

号機	注水状況		原子炉压力容器 下部温度	原子炉格納容器 圧力*	原子炉格納容器 水素濃度
1号機	淡水 注入中	炉心スプレィ系：約 2.0 m ³ /h	37.7	106.6 kPa abs	A系： 0.00 vol%
		給水系：約 2.9 m ³ /h			B系： 0.00 vol%
2号機	淡水 注入中	炉心スプレィ系：約 4.7 m ³ /h	55.5	6.98 kPa g	A系： 0.08 vol%
		給水系：約 1.6 m ³ /h			B系： 0.08 vol%
3号機	淡水 注入中	炉心スプレィ系：約 4.3 m ³ /h	55.5	0.20 kPa g	A系： 0.26 vol%
		給水系：約 2.5 m ³ /h			B系： 0.25 vol%

* 絶対圧(kPa abs) = ゲージ圧(kPa g) + 大気圧(標準大気圧 101.3 kPa)

【2号機】・8/29 11:36 原子炉への注水量の低下が確認されたため、炉心スプレィ系からの注水量を約 4.7m³/hから約 5.0m³/hに調整。また、給水系からの注水量を約 1.6m³/hから約 2.0m³/hへ調整。

【3号機】・8/29 11:36 原子炉への注水量の低下が確認されたため、炉心スプレィ系からの注水量を約 4.3m³/hから約 4.5m³/hに調整。(給水系からの注水量は約 2.5m³/hで継続)。

< 2. 使用済燃料プールの状況 > (8/29 11:00 時点)

号機	冷却方法	冷却状況	使用済燃料プール水温度
1号機	循環冷却システム	運転中	31.0
2号機	循環冷却システム	運転中	31.2
3号機	循環冷却システム	運転中	29.9
4号機	循環冷却システム	運転中	38

* 各号機使用済燃料プールおよび原子炉ウェルヘッドラジンの注入を適宜実施。

< 3. タービン建屋地下等のたまり水の移送状況 >

号機	排出元 →	移送先	移送状況
2号機	2号機 タービン建屋	→ 集中廃棄物処理施設 [プロセス主建屋]	8/28 10:26 ~ 移送実施中
3号機	3号機 タービン建屋	→ 集中廃棄物処理施設 [プロセス主建屋]	8/24 13:09 ~ 8/29 11:06 移送実施 8/29 12:52 ~ 移送実施中

※ 滞留水移送配管のポリエチレン管化作業に伴い、一時的に移送を停止。

< 4. 水処理設備および貯蔵設備の状況 > (8/29 7:00 時点)

設備	セシウム 吸着装置	第二セシウム 吸着装置 (サリー)	除染装置	淡水化装置 (逆浸透膜)	淡水化装置 (蒸発濃縮)
運転状況	停止中	運転中*	停止中	水バランスをみて 断続運転	水バランスをみて 断続運転

* フィルタの洗浄を適宜実施。

・H23/6/8～ 汚染水・処理水を貯蔵・保管するための大型タンクを順次輸送、据付。

<5. その他>

- H23/10/7～ 伐採木の自然発火防止や粉塵飛散防止のため、5, 6号機滞留水の浄化水を利用し、散水を適宜実施中。
- H24/2/23～ 6号機サブドレン水について、一時保管タンクを経由した、仮設タンクへの汲み上げ試験を実施中。
- H24/3/6～ 5号機サブドレン水について、一時保管タンクを経由した、仮設タンクへの汲み上げ試験を実施中。
- H24/4/25～ 地下水による海洋汚染拡大防止を目的として、遮水壁の本格施工に着手。
- H24/8/29 7:26 所内共通ディーゼル発電機(B)の試運転を開始。
11:34 運転状態に問題のないことが確認できたことから、所内共通ディーゼル発電機(B)の運転確認を完了。
- H24/8/29 10:26 頃 4号機原子炉建屋西側屋外において4号機原子炉建屋カバーリング工事に従事していた協力企業作業員1名がガントリークレーン受け架台から落下し負傷したため、5・6号機救急医療室に搬送。診察の結果、左手足関節骨折の疑いがあるため、急患車にてJヴィレッジへ搬送した後、12:11、救急車にていわき市の福島労災病院へ搬送。福島労災病院にて左踵骨骨折、左橈骨遠位端骨折により入院約2ヶ月を要する見込みと診断される。なお、当該作業員の身体に放射性物質の付着はない。
- H24/8/29 11:30 5号機補機冷却海水系ポンプ(A)の復旧作業が完了したため、試運転を開始。
13:00 運転状態に異常がないことを確認したため、本格運用を開始。

以上